



## 令和元年度卒業式を挙行了しました

令和元年度教育部農学科卒業式を3月5日(木)に本校中央教育棟大講義室で挙行し、来賓及び御家族の見守る中、90名が本校を巣立って行きました。



[呼名され順番に起立する卒業生]

式典を挙行するにあたっては、新型コロナウイルスの感染防止対策として、来賓の人数制限や式典時間の短縮、室内換気などを実施しました。マスク姿の出席者も多く見られ、例年とは少し異なる雰囲気の中で、卒業生は2年間にわたる専攻実習や農家派遣実習、プロジェクト活動、海外派遣研修、体育祭、農大祭、学生寮での生活など、2年間の農大での生活の様々な思い出を胸に卒業式に臨んでいました。



[卒業証書を受け取る総代の柴田光さん]

式典では、卒業生全員の名前を呼名し、友松校長から卒業生総代の柴田光さんに、卒業証書が授与されました。

加えて、成績優秀者や実習等に精励した者に対し、県知事賞や大学校長賞、全国団体賞などの表彰を行い、16名の学生が受賞しました。その後、校長式辞に続いて、県知事代理の金沢農業水産局技監と柴田同窓会長から御祝辞をいただきました。

続いて、1年生で次期学生会長の金子愛佳さんが、在校生代表として卒業生への感謝の気持ちを込めた送辞を述べ、卒業生代表の岩附果穂さんが2年間の思いながらの答辞を行い、卒業式は閉式となりました。



[友松校長の式辞]

卒業式終了後は、例年、学生会主催の卒業記念パーティを開催していましたが、新型コロナウイルス感染対策のため、卒業生、在校生が別々の場所で食事をとった後、卒業式会場の大講義室に戻って、職員も加わり、ビンゴゲームを楽しみました。卒業生、在校生が一緒になる最後の機会が短い時間しかありませんでしたが、それぞれが思い出を語り合ったり、写真を撮る姿があらこちらで見られました。

卒業生には、本校で学んだことを活かし、新たな環境でも活躍してほしいと思っています。  
(学務科 伊藤 正美)

## 本年度就職活動の総括と卒業生の進路

本校では、1年生に対する年間5回の進路セミナー、合同就職相談会や模擬面接会を開催するなど、学生の就職活動を支援しています。進路セミナーでは、ハローワークの学卒ジョブサポーターや面接マナーの専門家を講師に迎え、就職活動の取り組み方法や労働法の基礎知識、就職活動における面接の要点などの講義や演習を行います。こうした進路指導の結果、1年生のうち就職活動の知識を身に付け、2年生になるとすぐに始まる就職活動に備えます。

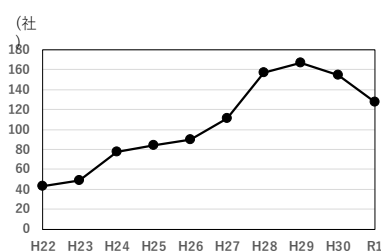


図-1 農大への求人数の推移

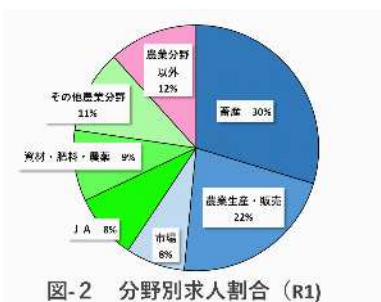


図-2 分野別求人割合 (R1)

一方、令和元年度の企業、農業法人等からの農学科学生に対する求人数（令和2年3月卒業生対象）は、合計で128社（県内88社、県外40社）でした。まだ多くの求人数があると見ていますが、近年で最も多かった平成29年度の167社と比べると4分の3近くにまで減少しています。（図-1）。

減少の主な要因は、農業生産に取り組んでいる農業法人等からの求人が減少しているためと考えられます。しかしながら、全体としてはJ Aや農業関連会社等からの積極的な求人に加えられ、依然高水準を維持しており、その結果、依然として100社を超える求人が本校に寄せられております。

こうした状況の結果、令和元年度農学科卒業生90名の進路の内訳は、表-1のとおりです。

りです。

卒業後直ちに親元就農した者は15名、農業法人へ就職就農した者は17名で、即就農者は合計で32名（全体の36%）でした。なお、今後就農する予定の者（国内外での研修後に就農する者及び一次就職後に就農する者）も加えた就農者数は47名（同52%）となりました。

今年度卒業生の進路の特徴としては、即就農者が平成27年度以来4年ぶりに10名を超え15名となったことです。これは、農業高校をはじめとする関係機関との連携強化のもと、就農に意欲的な学生を積極的に確保し、育成してきた結果であると言えます。

表-1 令和元年度農学科卒業生の進路

進路先	人数	割合
卒業後すぐに自営就農(親元就農)	15名	17%
農業法人等への就職就農	17名	19%
企業等に就職 (J A, 農業関連、その他企業等)	50名	56%
うち一次就職後に就農予定	12名	13%
国内外での研修	3名	3%
専門学校等に進学	1名	1%
その他	4名	4%
合計	90名	100%

一方、就職者の就職先の傾向を見ると、今年もJ Aあいち経済連や県内J Aへの就職が好調で、15名がJ A関係への就職を決めました。現在、学生の売り手市場が続いていると言われております。しかし、4年制大学の学生にも人気が高いJ A関係への就職は難関であることに変わりなく、エントリーシートや学校で行う模擬面接会へ参加する等のさまざまな試験対策に努め、就職活動に努力してきた学生達が見事に内定を勝ち取ったといえます。その他、ホームセンターなどの農業資材を取り扱う会社や青果市場関係の会社等への就職も好調でした。

卒業生には、それぞれ仕事の中身は違っても、本校で学んだという自負心を持って本県の今後の農業を支える若い力となってくれることを期待しています。

（農学科 横井 信之）

## 令和2年度の就活開始！ 第1回合同就職相談会を開催

農学科1年生の就職活動のスタートに合わせ、本校において令和3年度求人第1回合同就職相談会を、2月20日(木)、29日(金)、及び3月2日(月)の3日間にわたって開催しました。

以前から農業団体・農業関連会社と農業生産を行う農業法人は開催日を分けて開催していますが、今回はさらに農業法人を耕種部門と畜産部門に分けて開催しました。

家畜を飼養する法人への就職は、専門知識と技術が必要になるため、野菜等の栽培を学んだ学生が就職先として選択することはほとんどありません。そのため、開催日を分けることでどちらの学生も関心がある仕事の話の話を効率よく聴くことができます。

今回は3日間合わせて46社に御参加いただきました。また、学生は就職や一時就職を考えている82名が出席しました。



【全体説明会での参加会社からの概要説明】

相談会では、最初に全体説明会として中央教育棟の大講義室で参加各社の事業内容や特徴、求める人材等について説明を受けました。その後、会社ごとの個別説明会に分かれ、具体的な業務の内容や就業条件等について詳しい説明を受けました。

全体説明会で多くの採用担当者が口にしたのは「チャレンジ精神がある学生に来て欲しい」という趣旨のことばでした。

個別説明会は、1巡目と2巡目は求人票を見てあらかじめ申し込んだ会社、3巡目

は最初の全体説明会を聞いて興味を持った会社を巡りました。



【個別説明会で会社の説明を熱心に聴く学生】

個別説明会場では、最近本校から就職したOBも何名か各社担当者と共に出席し、学生に近い立場から会社での就業の様子や待遇面の説明など、学生に配慮した各社の気配りが見受けられました。

「事前に申し込んでなくても是非我が社の説明会に来て欲しい。」という全体説明会での各社からのラブコールもあり、多くの学生が3巡目にも参加しました。

学生たちは「学業と違って仕事は厳しい世界」ということは何となくわかっていても、実際に話を聞いて気持ちが引き締まったものと思います。あわせて、会社の採用担当者と顔を合わせることも学生にとって初めての経験です。いつもと違い、かなり緊張した様子で真剣に話を聞き質問をする姿が印象的でした。

これを機に、永く働き続けられる自分に合った仕事をぜひ見つけて欲しいと思います。

(農学科 横井 信之)

## 新しい搾乳システムが稼働し始めました

酪農専攻において、今年度中に整備を計画していた搾乳システム全体の施設・機械の更新が2月に完了しました。

従来の搾乳システムは、平成8年度にフリーストール牛舎とセットで整備され、ボーマチック社製のヘリンボーン式3頭 Wのパラー（魚の骨状に2列に牛が並んで6頭一度に搾乳する形態）でした。学生へのパラー施設の学習機会の提供やその技術を習得させるという意味合いもあって導入されましたが、当校のような少ない頭数規模での導入はかなり珍しかったものと思われま

す。しかしながら、導入から20年以上が経過して各所の劣化が激しく、様々なメンテナンスをしながらも運用していましたが、ここ数年は搾乳システム全体で毎年50万円ほど修理費用がかかっていました。その上、牛个体番号の自動読み取りや乳量データのPC 伝送、ミルカーの自動離脱等の機能も故障で使えない状況でした。



[更新されたパラー施設の内部]

今回の整備は、3,300万円の事業費で、デラバル社製による同じ形態のパラー施設や繋ぎエリアでの搾乳システム、搾った生乳を冷やし保管するバルククーラー等を更新するもので、パラーで搾った生乳を急速に冷やしてバルククーラーに入れるコンパクトウォーターチラー（プレートクーラー）も新規に導入しました。1月16日から工事を開始し、途中、半分ずつ片側3頭

分の施設を撤去・設置することを2度繰り返すことで、搾乳を継続しながら全体を入れ替えて、最終調整を終えて2月18日に工事が完了しました。



[真新しいバルククーラー]

今回の更新整備により、失われた機能の回復とともに、繁殖に活用できる精緻な行動量把握や、今後ネット接続する場合はクラウドデータと照合できるなど、高度のデータ利用や管理運用が可能となりました。また、出荷前のバルククーラー内の生乳検査結果も良好で、牛に負荷がかかる要因が減ったことで乳房炎も減り健康に牛が飼える状況となりました。今後は、実習による学生の技術習得とともに高品質で安全な生乳生産に役立つことが期待されます。

(農学科 川上 幸裕)

## 2019年度ニューファーマーズ研修 16名が修了しました

令和2年2月28日(金)に、2019年度ニューファーマーズ研修の卒業発表会と閉講式を開催し、16名が修了しました。

卒業発表会では、各々の実習で実施したプロジェクト活動の結果と今後の営農目標を全員が発表しました。研修の成果が十分に発揮され、就農に対する強い決意が感じられる素晴らしい発表内容でした。

また、閉講式後には、研修受講後の感想や研修の改善点についての意見交換会を行いました。研修生からは、自らの専門以外

の知識を得ることができ、今後の経営の参考になった等の声が聞かれました。

研修生は、研修終了後、各地域で就農し農業者の皆様の新たな仲間となります。引き続き、御指導、御支援をよろしくお願いいたします。



[発表の様子(左)と研修生と関係職員一同(右)]

なお、来年度もニューファーマーズ研修も開講予定です。意欲ある研修生が多数集まることを期待しております。

(就農支援科 石本 聖絵)

## 令和元年度の卒業式を終えて

3月5日(木)の卒業式をもって、農学科2年生90名が本校から巣立っていきました。親元で就農する者、企業に就職する者など、自らの将来を切り開いていく卒業生の決意と緊張感が感じられた卒業式でした。



会場の演台のわきには、切り花専攻の学生が先輩たちのために用意した生け花が飾られていました。先輩たちの門出を祝った美しい花たちは、いま中央教育棟の1階ホールで、本校に訪れる人たちを出迎えています(写真は3月13日の様子)。ホールを横切るたびに、美しい花たちと凛とした卒業生の姿が結び付きます。

(副校長 堤 公生)

## 農大からのお知らせ

### ◇令和2年度入学式◇

農学科の令和2年度入学式を次のとおり開催します。

- ・期 日：令和2年4月9日(木)  
午前10時30分から
- ・場 所：中央教育棟3階 大講義室
- ・問合せ先：学務科(伊藤) 0564-51-1602

\*式典の開催にあたっては、新型コロナウイルス感染対策を実施します。詳しくはホームページをご覧ください。

### ◇生産物実習販売の休止について◇

令和2年4月の生産物実習販売についてお知らせします。

毎週水曜日に本校体育館で実施しておりました生産物実習販売は、新型コロナウイルス感染対策のため、3月18日からしばらくの間休止しております。

再開については、今後の状況によって判断し、再開を決定した場合は、その旨をホームページに掲載させていただきます。

御迷惑をおかけしますが、御容赦のほどよろしくお願いいたします。

- ・問合せ先：農学科(山本) 0564-51-1673

### 校内でCSF(豚コレラ)防疫対策実施中

農大では、CSF防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

- 畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
- 農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
- 関係車両等の消毒の徹底  
(車両消毒槽、動力噴霧器)
- その他、諸防疫対策を実施